

恩納村在住のみなさまへ

ロタウイルス・おたふくかぜ 予防接種の全額助成がはじまります



この予防接種は、予防接種法に基づかない**任意予防接種**です。

接種にあたっては効果や副反応、健康被害救済制度などを理解したうえで、検討してください。

※ワクチン接種についてご心配なことがありましたら、必ず接種を行う前に主治医または福祉健康課へご相談ください。



補助金額

接種した費用の全額



対象期間

平成31年4月1日（月）から令和2年3月31日



予防接種の種類と対象者

おたふくかぜ

- 1歳の誕生日から小学校就学前の3月31日までの方
(ただし罹患したことのない方)
恩納村での費用助成は
1人につき1回のみです。

ロタウイルス

※ワクチンの種類で対象月齢及び回数異なります。

- ロタリックス
生後6週～24週までの間に4週以上の間隔で2回接種
- ロタテック
生後6週～32週までの間に4週以上の間隔で3回接種



接種までの流れ

① ワクチンの効果・副反応、助成の対象条件等を確認する。

② かかりつけ医へ接種可能医療機関か確認し、ご予約の電話を行う。

契約医療機関

北部地区医師会に加入している医療機関、県立中部病院、
県立南部医療センター・こども医療センター、県立北部病院、沖縄中部療育医療センター

※契約外の医療機関で接種希望の場合は、償還払いとなります。(国内の医療機関に限ります)
医療機関で一旦予防接種費用をお支払いし、役場窓口で手続きが必要になります。

※この予防接種は任意の予防接種のため、医療機関によってはワクチンを置いていないところもありますので、ご予約の際に必ずご確認ください。

③ 予防接種を受ける。

★必ず母子手帳をご持参ください。

★予診票は医療機関のものをお使いください。役場からの予診票発行・発送はございません。



自己負担で接種した方へ（国内の医療機関に限ります）

恩納村役場窓口にて助成の手続きが必要です。有効期限は接種日から1年以内です。

持ち物

- ①医療機関から受け取った領収書
(おたふくかぜ、ロタウイルス予防接種を行ったことが明記されたもの)
- ②接種日、使用したワクチンが分かる書類または母子手帳の予防接種ページ
- ③保護者名義の振込口座番号等がわかるもの(預金通帳等)
- ④印鑑(認印可)

接種後はなるべく早めに手続きにお越しください



健康被害の補償について

今回の予防接種は、市町村の行政措置に基づき実施する予防接種であり、万一医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による医薬品副作用被害救済制度及び恩納村が加入する予防接種事故賠償保険による補償を受けることができます。

上記の点を十分ご理解したうえで、お子さまへの接種の判断をお願いいたします

お問い合わせ先

恩納村役場 福祉健康課 母子保健係

☎: 098-966-1207

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）とは？

おたふく風邪ウイルスによって引き起こされ、咳やくしゃみなどでウイルスに感染し、2～3週間の潜伏期を経て、両方または片方の耳下腺（耳の下からほほにかけて）がはれます。はれは痛みますが、赤くなったりはせず、3日くらいでピークを迎え、1週間から10日程度で消失します。

その他の症状としては、発熱が多く、頭痛、倦怠感、食欲低下などもあります。感染しても症状がでない方が30～40%います。3～6歳頃に罹りやすく、合併症として、無菌性髄膜炎、難聴（多くは片側性で回復は見込めない）、脳炎、膵炎などがあり、思春期以降にかかると精巣炎や卵巣炎をおこすこともあります。

おたふくかぜワクチンの効果

2～4歳の間におたふくかぜワクチンを1回接種した人のうち、90%以上の人に免疫ができ、おたふくかぜにかからなくなったり、かかっても軽くすんだりします。

おたふくかぜワクチンの副反応

注射部位の赤み・はれ、発熱や軽度の耳下腺のはれ、発疹、じんましん、かゆみを認めることがあります。これらは通常、数日以内に自然に治るので心配はいりません。重い副反応として非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様症状、無菌性髄膜炎、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症、急性血小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎の報告があります。接種から2～3週間後に頭痛、嘔吐等がみられた場合は、ワクチンによる髄膜炎発症の可能性があるので注意しましょう。

接種後、高熱などの異常がみられた場合は、医師の診察を受けましょう。

ロタウイルス胃腸炎とは？

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児に多くおこる感染性胃腸炎のひとつで、ロタウイルスというウイルスが原因です。冬から春先にかけて流行し、およそ生後6か月から2歳の乳幼児を中心に起こり、5歳までにほとんどの子どもが感染するといわれています。

ロタウイルス胃腸炎の多くは突然の嘔吐に続き、白っぽい水のような下痢をおこします。発熱を伴うこともあり、回復には1週間ほどかかります。

また、ほとんどの場合は特に治療を行わなくても経口での水分や電解質補給だけで回復しますが、時に脱水、腎不全、脳炎、脳症などを合併することもあり、症状が重く脱水が強い場合には入院が必要となることもあります。

ロタウイルスワクチンの効果

予防接種を受けると、ロタウイルス胃腸炎の予防効果は80%程度、重症化の予防効果は90%以上です。ただし他のウイルスに起因する胃腸炎を予防することはできません。

ロタウイルスワクチンの副反応

接種後、特に初回接種の1週間以内に、腸重積症状（ぐったりする、顔色が悪い、繰り返す嘔吐、繰り返す不機嫌、血便、お腹の張り）がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害（メッケル憩室等）や腸重積症の既往のある乳児、重症複合型免疫不全症（SCID）を有する乳児は、接種を受けることができません。